

先着順となります！

## 太陽光発電設備等導入補助金を活用してエコな生活を！

- 【補助対象者】 町内にお住まいの方、最上町へ移住を予定している方
- 【申請方法】 申請書及びその他必要書類をエネルギー産業推進室までご提出ください。
- 【申請受付期間】 令和8年4月20日(月)～令和9年2月26日(金)  
※先着順、予算に達し次第受付終了となります。
- 【事業完了期限】 令和9年3月15日(月)までに  
※設置完了・報告書提出が可能な事業に限る


HPに要綱・申請書類をアップロードしています。詳しくは最上町ゼロカーボンシティ推進事業太陽光発電設備等導入補助金交付要綱をご確認ください。不明事項については下記担当までお問い合わせください。

全国でもトップレベルの手厚い補助で省エネ設備導入を支援しています！

### 【主な補助対象設備(例)】

※設備詳細は交付要綱をご確認ください。


**木質バイオマス燃焼機器**



設置費用の **2/3** を補助  
更に **5万円** を上乗せします

**最大 70万円補助**

**太陽光発電設備**



7万円/kwに更に  
**5万円/kw** を上乗せします

**最大 93万円補助**  
(本事業要綱第5条の表をご参照ください)

県内トップの補助率！


**断熱改修**



断熱リフォーム費の **1/3** を補助

**最大 120万円補助**


**家庭用蓄電池**



蓄電池価格の **1/3** を補助  
更に **10万円** を上乗せします

**最大 80万円補助**

**高効率空調機器**



既に太陽光発電設備をお持ちの方も対象です

設置費用の **1/2** を補助

**最大 15万円補助**

全4回にわたり「教えて！エネルギーのこと」をご覧いただき、ありがとうございました。少し難しく感じていたエネルギーのことが、電気代や暑さ・寒さなど、日々の暮らしとつながる身近なものとして伝わっていたらうれしく思います。

これからの暮らしは、ちょっとした選択で、より快適に、より安心に変えていくことができます。町では、皆様にとって普段の生活が少しでも心地よくなるよう、これからもさまざまな取組で支えています。「うちにはどんな方法が合うだろう」そんなふうに考えることから、はじめてみませんか。

そんなときは、お気軽にご相談ください。



商工観光課  
エネルギー産業推進室  
0233-43-2111 (内線214)

## 連載 Energy ナビ！

# 教えて！エネルギーのこと

### シリーズ4(最終回) 公共施設から、わが家へ。最上町ゼロカーボン次の一歩。

最上町のゼロカーボンの取組は、計画段階から、いよいよ実行の段階へ進んでいます。令和7年度から11年度までの5年間で脱炭素化を進め、CO<sub>2</sub>削減量は年間5,545トンを目指しています。

### まずは公共施設から、脱炭素の取り組みを進めています！



公共施設では、CO<sub>2</sub>フリー電力への切り替えを行い、令和8年4月には病院や浄化センターなどを含む高圧14施設で導入が完了しました。大きな施設から取り組むことで、町全体の電力のあり方を変えていく第一歩となっています。

さらに今後は、PPA方式による太陽光発電設備の導入を進め、「使う電気を自分たちでつくる」取組も本格化していきます。

※PPA方式：発電事業者が施設の屋根などに太陽光発電設備を設置し、発電した電気を利用者が購入する仕組み

### わが家に合った「省エネ」を選びましょう！

ゼロカーボンは、公共施設だけで進めるものではありません。電気代や燃料費、冬の寒さや夏の暑さへの備えなど、日々の暮らしと密接につながっています。だからこそ大切なのは、「わが家に合った方法」を知り、無理なく取り入れていくことです。

電気代を抑えたいなら太陽光発電や蓄電池、灯油代の軽減には薪ストーブなどの木質バイオマス機器、年間を通して快適に過ごしたいなら高効率空調や断熱改修など、それぞれの家庭に合った選択肢があります。

すでに設備を導入している場合でも、組み合わせることでさらに効果を高めることができます。町では、こうした家庭での取組を後押しする補助制度を用意しています。暮らしに合った一歩を選び、できることから始めてみませんか。



### ゼロカーボンは我慢じゃなくて「得する選択」?!

「ゼロカーボン」と聞くと、我慢や節約ばかりをイメージしていませんか。でも実は、逆です。光熱費は抑えられ、冬は暖かく、夏は涼しく。さらに、停電時にも電気が使えるなど、安心にもつながります。これからの暮らしは、「負担を減らしながら、快適さを上げる」時代です。町はすでに公共施設から、その一歩を踏み出しました。次は、わが家に合った方法を選ぶ番です。できることから大丈夫です。まずは、「少し先の暮らし」を想像することから始めてみませんか。

